

# 鉄斎書

会期

8月18日(木)～10月10日(月)

月曜日休館 但し10月10日(月)は開館

爲爲爭食雀爭巢獨  
 空油邊風雪多雀盡  
 蹋水翅一足不鳴不  
 勤意如何

白居易問鶴詩  
 年又三集 鐵斎書

## 鉄斎 —— 多様性と一貫性 ——

野中吟雪

富岡鉄斎(1836~1924)は、天保7年京都に生まれ、33歳の時、明治維新を迎え、大正13年12月、89歳に亘る長い生涯を閉じている。つまり、幕末の世情騒乱の中で多感な青年期を送り、学問を志し、画筆を染め、40代の神官生活の後には専ら詩・書・画・篆刻の芸術三昧に身を置いたたぐい稀な文人として知られている。

鉄斎の書画は一万点を超えると推定され、その龐大な作品点数にも驚かされるが、表現内容の幅広さという点においても、今古の幾多の芸術家の中にあってきわめて特異であり、かつ驚嘆に値する。彼の画は山水・神仙蓬萊・人物・肖像・花卉・鳥獸・鱗虫など、画題がすこぶる多岐に亘るが、書もまた自作の漢詩・和歌はもとより、文学・哲学・宗教・芸術・地理・天文にいたるまで、和漢・古今を問わず広く典籍に根柢をもとめて、きわめて広汎な内容を有している。

このように詩文等の表現内容がおよそ百科万般に亘る鉄斎の書は、その内容の広さと高さにおいて群を抜いているが、その他に次の点をあげることが出来る。

まず、表現様式の多様性について、つまり書幅・書額・卷子・屏風・画賛・書翰・碑文・箱書・折帖・扇面・題簽・題跋・雑記から器玩・篆刻にまで及んでいる。それらは書幅・書額における風格はいうに及ばず、書画一味の妙境を示す数多くの画賛類、金石家の系譜をいかに示す碑文、内容の理解や鑑識の役割を一つの独立した「美」の対象にまで高めた箱書、雅趣溢れる折帖・扇面、彼の学問を物語る題簽・題跋・雑記、その上、立体変形面に特異の平衡感覚を示す器玩の書・篆刻等、いずれも現代の学書的発想による「書」の概念をはるかに超えており、それらは彼の学者・文人としての生涯を如実に物語っているといえよう。

鉄斎の書は、使用された書体が楷・行・草・隸・篆・仮名と各体にまたがっており、表現の様式・内容に応じた書体の変化も彼の書の一つの特質となっている。若い頃の一時期、篆刻家を志したといわれる鉄斎は、その後和漢の金石家の間を彷徨し、晩年に至ってその傾向はいよいよ昂まり、彼の書画は一見奇怪とも映る大胆な造形を示しながら、その背後に東洋独自の高い精神性と深い思想をはらんでいる。変幻自在な表現によって各体が自由に駆使されながらも、そこには厳しさと透明感溢れる金石の響きが溢れており、各体ともに線質は篆意・隸意を包含した鉄斎その人としての一貫性が認められる。

ところで鉄斎歿後60数年を経た今日、全国各地で書道展の開催が絶え間なく、書を学ぶ人々の数は増加し、書壇は空前の活況を呈している。しかし、昨今の展覧会中心・書技偏重の傾向は次第に内容の希薄化を招き、一部では和漢の古典や文人の書の見直しが叫ばれ、鉄斎の書の声価もこのところ次第に高まりつつある。このような時代にあってひととき存在感を高める彼の書の魅力を考える時、そこには明確な要因が認められる。一般的に、書作に対する姿勢には大別すると二種がある。その一つは、一点の作品を作るにも書の技法

の鍛錬を繰り返し、磨き上げることによってひたすら完成度を求める「熟書」であり、今一つは、書技・造形の完成度のみを重視することなく、その時々刻々の生命のほとばしりを第一とする「生書」とである。鉄斎の書は、まさに後者を代表するもので、これまでの調査では彼の龐大な遺作の中で、碑文などごく特殊な例を除けば、書き直しや草稿の作成、反覆推敲の跡は皆無に等しい。彼の芸術探究生活は、万卷の書の読破と、和漢の画法の習得、それに金石への彷徨等、文人世界一色に覆われていた。技法としての結果に拘泥することなく、己の燃燒の跡を彼自身の分身と考え、より生で新鮮な美しさを求めたものと思われる。つまり彼の書画は、彼の持つ画法・書法を存分に駆使し、なおかつそれらを超越して、刻々の命を生きる証しとして創り出されたものであり、おのずからそこには芸術に何よりも大切な根底となるべき生命力が横溢し、そのたくましが観る者に迫ってくるのである。

今回出陳の58点は、多くの鉄斎の書の中でいわゆる「作品」として揮毫されたものが中心となっている。その内容は30代の作から歿年に至るまで、ほぼ各年代を網羅している。鋭利な細線により独特なリズムを奏でる「宗廟之詩書」(1)、重厚かつ豪快無比の「丈夫心事二行書」(46)、正しく篆法に則り謹書された「萬歳書」(34)、花木人物を以て書した「勾白字詩七絶」(18)、絹本特有のかすれを生かし明るく濶達な筆致の「福星開寿域書」(49)、生なタッチで真率な情熱を示す「白居易問鶴詩書」(40)等、内容・書式・書体ともに千変万化する鉄斎の書を俯瞰することができ、併せて書作品の底に流れる彼の深奥なる学問と、旺盛なる生命力を感得する得難い展観である。

(新潟大学教授)



34 萬歳書



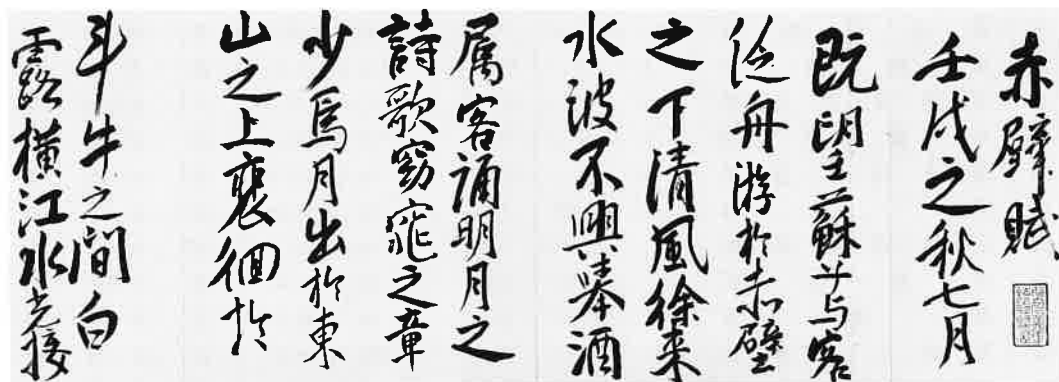
49 福星開寿域書



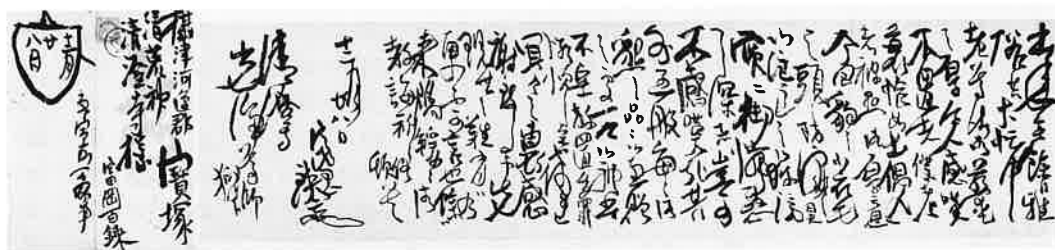
18 勾白字詩七絕



27 火用慎書



58 前赤壁賦書(部分)



77 清澄寺光浄大和上宛書簡

## 《出品目錄》

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・形状
1	宗廟之詩書	1869 (明治2)	34	133.9×29.6	紙 本・掛 軸
2	兎島高德詩二行書	不詳	30代	124.0×30.9	紙 本・掛 軸
3	写懷詩書	不詳	30代	137.5×29.2	紙 本・掛 軸
4	多少箴書	不詳	30代	67.0×30.0	紙 本・掛 軸
5	对聯	不詳	30代	(各)124.0×12.0	紙 本・掛 軸
6	文天祥正氣歌書	不詳	30代	110.5×53.6	紙 本・掛 軸
7	虛白書	不詳	30代	28.1×70.3	紙 本・額 装
8	骨董說・諸葛侯戒子書	不詳	30代	28.2×418.7 28.2×383.7	紙 本・折 本
9	童僊房開拓境之詩書	1871 (明治4)	36	150.8×37.1	紙 本・掛 軸
10	和氣清麻呂公詩二行書	不詳	40代	134.2×32.4	紙 本・掛 軸
11	險者君子之德也書	1883 (明治16)	48	33.0×134.0	紙 本・額 装
12	菅公水中月詩書	不詳	50代	133.4×43.8	紙 本・掛 軸
13	弔武田光雲齊及烈士墳詩	不詳	50代	135.2×33.0	紙 本・掛 軸
14	不如學書	不詳	50代	33.8×106.5	紙 本・額 装
15	売茶翁对客言志卷	不詳	50代	26.7×360.0	紙 本・卷 子
16	帝道唯一書	1891 (明治24)	56	28.0×69.0	紙 本・掛 軸
17	仏説摩訶酒仏妙楽經	1898 (明治31)	63	32.0×260.8	紙 本・卷 子
18	勾白字詩七絶	不詳	60代	112.0×51.2	絹 本・掛 軸
19	家内安全火用鎮書	不詳	60代	122.9×39.9	紙 本・掛 軸
20	君子修道之語書	不詳	60代	138.2×44.3	紙 本・掛 軸
21	千秋萬々歳書	不詳	60代	123.9×30.7	紙 本・掛 軸
22	萬国度皇風書	不詳	60代	33.5×141.3	絹 本・額 装
23	鉄老談芸卷	不詳	60代	23.5×138.5	紙 本・卷 子
24	落款手本	1901 (明治34)	66	29.7×1,575.0	紙 本・折 本
25	陶然書	1903 (明治36)	68	33.2×96.0	紙 本・額 装
26	長生安楽書	1910 (明治43)	75	45.0×198.0	紙 本・額 装
27	火用慎書	不詳	70代	113.2×25.7	紙 本・掛 軸
28	五福壽為先書	不詳	70代	40.6×153.7	紙 本・額 装
29	松羅窟書	不詳	70代	52.0×135.6	絹 本・額 装
30	澄心得妙觀書	不詳	70代	46.0×179.4	絹 本・額 装
31	壽書	1912 (明治45)	77	35.7×35.9	絹 本・掛 軸
32	投心遶朝命書	1913 (大正2)	78	34.4×134.3	絹 本・額 装
33	熊岡併歌	1915 (大正4)	80	37.4×41.0	紙 本・掛 軸
34	萬歳書	1915 (大正4)	80	39.7×89.2	紙 本・掛 軸
35	萬歳二大字書	1915 (大正4)	80	199.5×89.2	紙 本・掛 軸
36	萬々歳書	1915 (大正4)	80	25.5×37.4	紙 本・掛 軸
37	安心立命詩書	1916 (大正5)	81	126.1×43.4	絹 本・掛 軸
38	慎忍書	1916 (大正5)	81	41.5×131.5	絹 本・額 装
39	五字横物書	1917 (大正6)	82	32.8×37.9	紙 本・掛 軸
40	白居易問鶴詩書	1917 (大正6)	82	135.5×53.0	紙 本・掛 軸
41	小耶馬溪函題字及跋文	1917 (大正6)	82	21.2×285.8	紙 本・卷 子
42	南山祝壽長書	1918 (大正7)	83	136.2×41.3	絹 本・掛 軸
43	延命地藏尊書	1918 (大正7)	83	32.5×101.0	絹 本・額 装
44	百事樂嘉辰書	1918 (大正7)	83	48.7×193.0	絹 本・額 装
45	祝壽聯	1920 (大正9)	85	(各)131.3×20.9	絹 本・掛 軸
46	丈夫心事二行書	1920 (大正9)	85	130.5×32.0	紙 本・掛 軸

番号	題名	制作年代	年令	本紙寸法	材質・形状
47	投義志所希書	1920 (大正9)	85	125.0×38.5	絹 本・掛 軸
48	八坂大神号書	1920 (大正9)	85	122.4×31.4	紙 本・掛 軸
49	福星開寿域書	1920 (大正9)	85	42.2×143.5	絹 本・額 装
50	賀立志成功詩書	1921 (大正10)	86	144.4×39.8	紙 本・掛 軸
51	紙田墨稼書	1921 (大正10)	86	47.0×175.0	紙 本・額 装
52	試筆小詩書	1923 (大正12)	88	131.5×28.6	紙 本・掛 軸
53	寢言書	1923 (大正12)	88	38.8×47.0	紙 本・掛 軸
54	松風蘿月書	1923 (大正12)	88	31.5×126.7	紙 本・額 装
55	凌雲書	1923 (大正12)	88	32.5×66.6	紙 本・額 装
56	印癖書	1923 (大正12)	88	31.1×132.4	紙 本・卷 子
57	春光庵書	1924 (大正13)	89	31.8×108.0	紙 本・額 装
58	前赤壁賦書	1924 (大正13)	89	(各) 32.7×264.4	紙 本・折 本

書簡

番号	宛先	制作年代	年令	内容	形状
59	大田垣蓮月尼	1868 (明治元)	33	(一)逃避行通知状 (二)処世の本義	卷 子
60	神田香巖	不詳	50代	詩の添削依頼状等	卷 子
61	柴田松園	1903 (明治36)	68	信州旅行随行之礼状	卷 子
62	角田栗堂	1908 (明治41)	73	献上画の礼に対する礼状	卷 子
63	岩崎才治	1909 (明治42)	74	病氣見舞の礼状	卷 子
64	前田正名	1915 (大正4)	80	熊皮の礼状	卷 子
65	護浄院	不詳	80代	御供物礼状	掛 軸
66	西園寺陶庵公	1921 (大正10)	86	新年挨拶状	掛 軸
67	清澄寺	1922 (大正11)	87	悦叟翁記念碑のこと	卷 子
68	亮禅大僧正	1923 (大正12)	88	御加持の礼状	卷 子
69	清澄寺	1923 (大正12)	88	登山延期のこと	卷 子
70	清澄寺光浄大和上	1923 (大正12)	88	百鍊堂礼状	卷 子
71	清澄寺光浄大和上	1923 (大正12)	88	登山断念のこと	卷 子
72	清澄寺光浄大和上	1924 (大正13)	89	登山予約のこと	卷 子
73	清澄寺光浄大和上	1924 (大正13)	89	登山変更のこと	卷 子
74	清澄寺光浄大和上	1924 (大正13)	89	大師遊歴・十八羅漢開基園 贈来のこと	卷 子
75	清澄寺光浄大和上	1924 (大正13)	89	赤壁帖猶予申入のこと	卷 子
76	清澄寺光浄大和上	1924 (大正13)	89	蓬萊山図贈来のこと	卷 子
77	清澄寺光浄大和上	1924 (大正13)	89	臨終三日前、感謝の状	卷 子

出品作品は期間中下記の通り二回にわけて展示いたします。

但し一部作品は重複することがあります。

前期 8月18日(木)～9月11日(日)

後期 9月13日(火)～10月10日(月)